

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載  
 【部門区分】第1部門第2区分  
 【発行日】令和4年7月20日(2022.7.20)

【公開番号】特開2022-243(P2022-243A)  
 【公開日】令和4年1月4日(2022.1.4)  
 【年通号数】公開公報(特許)2022-001  
 【出願番号】特願2021-162822(P2021-162822)  
 【国際特許分類】  
   A 6 1 F  2/954(2013.01)  
 【F I】  
   A 6 1 F  2/954

10

【手続補正書】  
 【提出日】令和4年7月8日(2022.7.8)  
 【手続補正1】  
 【補正対象書類名】特許請求の範囲  
 【補正対象項目名】全文  
 【補正方法】変更  
 【補正の内容】

20

【特許請求の範囲】  
 【請求項1】

ロックアセンブリであって、

前記ロックアセンブリの近位端から前記ロックアセンブリの遠位端まで延びる第1のルーメンであって、前記第1のルーメンが第1の長尺部材を受けるように構成される、第1のルーメント、

前記ロックアセンブリの前記遠位端から延びる第2のルーメンであって、前記第2のルーメンが第2の長尺部材を受けるように構成される、第2のルーメント、

前記第2の長尺部材が前記第2のルーメンを通じて延びるときに前記第2の長尺部材を保持するように構成されるエラストマー部材と、  
を備えるロックアセンブリ。

30

【請求項2】

前記第1のルーメンおよび前記第2のルーメンが、側壁を備えるハウジングによって少なくとも部分的に囲まれている、請求項1に記載のロックアセンブリ。

【請求項3】

前記ハウジングが、前記エラストマー部材を受けるように構成される凹部を更に備える、請求項2に記載のロックアセンブリ。

【請求項4】

前記第2の長尺部材に沿って押し進められて前記第2の長尺部材を前記第2のルーメンから離脱させるように構成されるシースを更に備える、請求項3に記載のロックアセンブリ  
。

40

【請求項5】

前記第2のルーメンが、前記第2のルーメンの直径よりも小さい直径を有する保持部を備える、請求項3に記載のロックアセンブリ。

【請求項6】

前記エラストマー部材は、前記エラストマー部材が前記凹部にあるときに前記第2のルーメンと位置が合うように構成される開口を備え、ここで、前記開口の少なくとも一部は、前記第2のルーメンよりも小さい直径を有し、前記開口は、前記第2の長尺部材を受け入れるために広がるように構成される、請求項3に記載のロックアセンブリ。

【請求項7】

50

前記エラストマー部材が、前記第 1 のルーメンと位置が合う通路を更に備える、請求項 6 に記載のロックアセンブリ。

【請求項 8】

前記開口は、前記第 2 の長尺部材が前記開口に挿入されたときに、前記第 2 の長尺部材を前記開口の中間部に送り込む傾斜壁を備える、請求項 7 に記載のロックアセンブリ。

【請求項 9】

前記開口は、前記第 2 の長尺部材が前記第 2 のルーメンに挿入されたときに前記エラストマー部材と前記第 2 の長尺部材との間に摩擦をもたらすように構成される、請求項 6 に記載のロックアセンブリ。

【請求項 10】

前記摩擦は、前記ロックアセンブリに対して、前記第 2 の長尺部材の遠位方向への動きに抵抗する、請求項 9 に記載のロックアセンブリ。

10

【請求項 11】

前記摩擦は、前記第 2 の長尺部材が前記遠位方向に十分な張力を受けるまで、前記遠位方向への動きに抵抗する、請求項 10 に記載のロックアセンブリ。

【請求項 12】

前記遠位端から延びる突出部を更に備え、前記第 2 の長尺部材が前記突出部の半径よりも鋭く曲がるのを防ぐように構成される、請求項 1 に記載のロックアセンブリ。

20

30

40

50